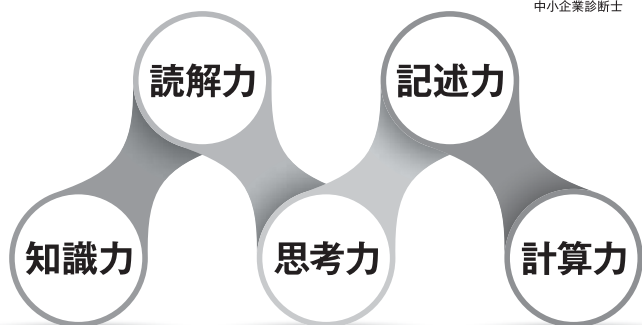


特集

2次で必要な5つの能力

平野 純一
KECビジネススクール専任講師
中小企業診断士



世の中に数ある試験の中でも、診断士2次試験には際立った特殊性と難しさがあり、間違った考え方や認識を持っている受験生も多い。

本特集では、資格学校「KECビジネススクール」のオリジナルメソッドから、それらの誤解を正すとともに、2次試験に必要な能力の鍛え方を徹底解説、受験生の基礎力向上を目指す。
企業診断恒例の誌上添削付き！

- 第 1 章 — 2次試験にまつわる誤解を正す
- 第 2 章 — 知識力の鍛え方
- 第 3 章 — 読解力の鍛え方
- 第 4 章 — 思考力の鍛え方
- 第 5 章 — 記述力の鍛え方
- 第 6 章 — 演習問題
— 先着30名様限定の無料添削付き

【特集】2次で必要な5つの能力



第 1 章 …… 2次試験にまつわる誤解を正す

平野 純一
KECビジネススクール専任講師/中小企業診断士

有名な孫子の「兵法」に「彼を知り己を知れば百戦殆からず」という一節があります。その意味は、敵と味方の情勢をよく知れば、何度戦っても敗れることはないということです。

しかし、2次試験は、「相手を知ること＝何を求められる試験で、正解は何か」、「己を知ること＝自分の能力のどこが足りず、不足部分をどのようにすれば補えるか」、どちらも認識することが大変難しい試験です。

そこで、本特集では、2次試験を合格するために必要な基礎能力と、その能力の鍛え方について、KEC ビジネススクール独自の視点で具体的に解説していきます。類書にはない内容が多いため、読者の皆様のお役に立てるはずですよ。

本章では、2次試験の特殊性に触れながら、受験生に多くある誤解や勘違いについて正していきます。

1 試験委員が考える解答は一つだけ

2次試験は正解が発表されず、各資格学校が発表する模範解答はバラバラです。ただし、正解が発表されないこと自体は、税理士試験をはじめ論述試験に共通した制度であり、診断士試験が例外というわけではありません。もっとも、他の論述

試験の多くは条文、判例、公式や計算による数値などの客観的な基準があるため、各資格学校が発表する模範解答の内容に大きなズレはありません。

このことについては、受験生の多くが、各資格学校の模範解答の内容がバラバラでも、他の試験と違って明らかな根拠がない以上、「それぞれが合格答案になる」という認識をしているようです。

これは大きな誤解です。原則的に「試験委員が考える解答の内容は一つだけある」と考えてください。その理由は、「それぞれが合格答案になる」と考えた場合、採点者は数千の答案の一つひとつについて価値判断をする必要がありますが、そのようなことは物理的に不可能だからです。すべての国家試験は、出題者が用意した一つの解答を探しにいくという意味で共通しています。

ちなみに、出題ミスにより日本語の解釈が複数生じてしまった場合、また、解答が試験委員の予測を超えた素晴らしい答案である場合には、複数の正解が生まれる可能性はあります。ただし、これらは弱干の例外でしょう。

設問の模範解答と解説を読んで、それが本当は0点の内容だったとしても、そのことを見抜ける受験生は少数です。独学の方はもちろん、資格学校に通っている方も、1校のみの解答・解説に頼ることは危険であると認識しておいてください。